

◎人間文化学部

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

“地球的規模での共生”の視点から人間と社会のあるべき姿を探り、多様な文化の理解と健全な生活を営む知性・先見性・専門知識と、柔軟で複眼的な思考力を身につけ、地域社会に貢献する人材を育成します。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

人間文化学部は国際文化学科と健康科学科の2学科で構成されています。長い時間を経て形成され変化し続ける文化を学ぶ国際文化と、共通する文化の基盤をなす身体と健康について学ぶ健康科学。両学科の特性を活かして人間の文化・生活・身体・健康の諸課題を総合的に捉える「人間文化学」を構築したいと考えています。

人間文化学部の特色は、少人数制の教育です。国際文化学科ではゼミ形式の授業と徹底した語学教育、健康科学科では基礎から応用まで多くの実験・実習科目が用意されています。

文系的あるいは理系的発想だけでは解決困難な課題が増えている現在、柔軟で複眼的な思考力を身につけ、自ら挑戦する資質を育むため両学科とも常にカリキュラムの検証を行い、最新・最善のカリキュラムを提供しています。

学修成果の評価については、能動的な学修を促す手法を積極的に導入し、適正な学修時間を確保した上で、コースカタログ・シラバスに配点割合を示した多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には、授業で発展・向上をはかる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」について、判断する基準を各科目において設けた上で、学期中や学期末に行うレポート及び小レポート・プレゼンテーション・筆記試験・実技試験等のほか、授業への能動的な参加度の観察や学生相互の評価などの方法を組み合わせて、総合的に評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

人間文化学部は、次に掲げる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」を持ち、世界のさまざまな文化を理解し、対等な立場で他者と協力し合える人、真に豊かで健康な生活の実現を目指し、生涯にわたる健康の維持・増進に積極的に取り組む人を求めています。

【知識・技能】

文化と社会、生活・身体・健康に関する基礎学力を持っている人

【思考力・判断力・表現力】

文化と社会、生活・身体・健康に係る諸問題について、論理的に思考し、さまざまな観点から多面的に考察し、自分自身の考えをまとめ表現できる人

【主体性・協働性】

文化と社会、生活・身体・健康に係る諸問題に関心を持ち、積極的に取り組む意欲と協力して学修を進めていこうとする態度を持っている人

◎健康科学科

卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー）

1 教育目的

健康科学科は、真に豊かで健康な人間生活の実現を目指し、長寿社会におけるクオリティ・オブ・ライフの向上や、生涯にわたる健康の維持・増進と心身の調和的発達の実現に、他者と協働して、主体的かつ積極的に取り組む人材を育成します。

2 育成する学生像

健康の維持・増進並びに疾病予防にかかわる「人体の仕組みと健康」、「食品・栄養と健康」、「スポーツと健康」についての専門的知識と課題発見及び問題解決のための基礎技能とコミュニケーション能力を有する人材です。それを具現化した資格・免許として、「管理栄養士国家試験受験資格」、「栄養教諭一種免許状」、「栄養士免許」、「食品衛生監視員・食品衛生管理者任用資格」が取得可能です。

3 学修成果

【知識】

- ・健康の維持・増進並びに疾病予防にかかわる生体科学についての専門的知識を有している。
- ・健康の維持・増進並びに疾病予防にかかわる栄養と食品についての専門的知識を有している。
- ・健康の維持・増進並びに疾病予防にかかわる運動・スポーツについての専門的知識を有している。
- ・健康管理科学についての専門的知識を有している。

【態度】

- ・新たな課題を発見し問題解決に向けて学術的に取り組むことができる。
- ・人間に対する深い造詣と弱者への共感を有する倫理的態度を有している。
- ・諸課題の解決のために他者と協働し、主体性を持って取り組むことができる。

【技能】

- ・健康にかかわる知見を、論理的・効果的に表現することができる。
- ・健康の維持・増進並びに疾病予防にかかわる基礎レベルの科学的調査・実験をすることができる。
- ・健康の維持・増進並びに疾病予防のための「食」と「運動」を企画・実践することができる。

教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・ポリシー）

1 専門教育課程の編成方針

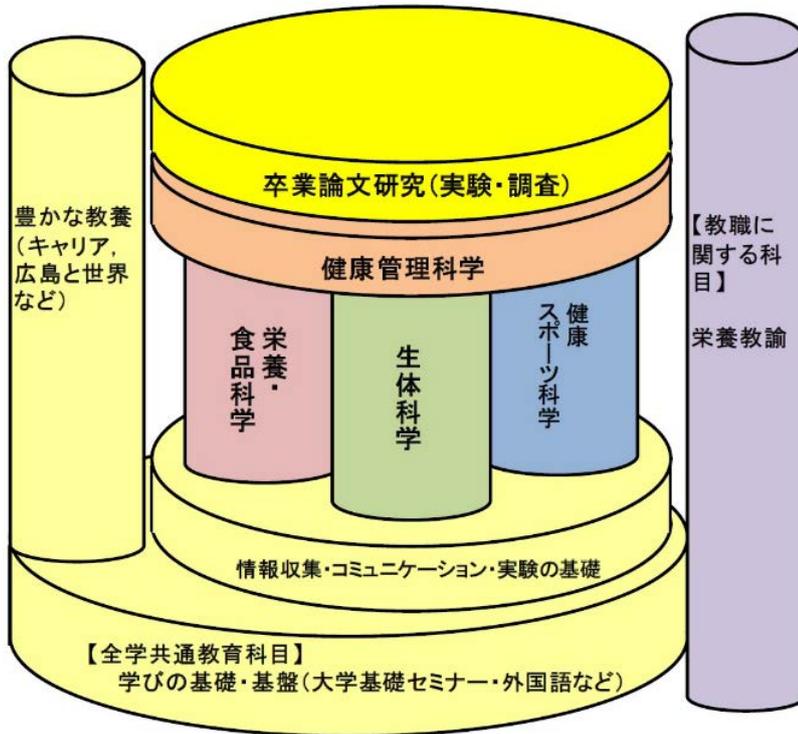
健康科学科では、上記のような学修成果をすべての学生に保証するために、以下のような学修環境を整備しています。

- (1) 全教員参加による、少人数の、きめ細かな対話型の初年次教育
- (2) 基礎から応用まで多様な実験・実習・演習を含んだ専門科目群
- (3) 考える力・計画性・構想力を養うための所属研究室における3年次からの卒業論文研究
- (4) 学内・学外における調査・実習
- (5) 学内・学外の教員・学生などの参加による学際的な形での卒論発表会

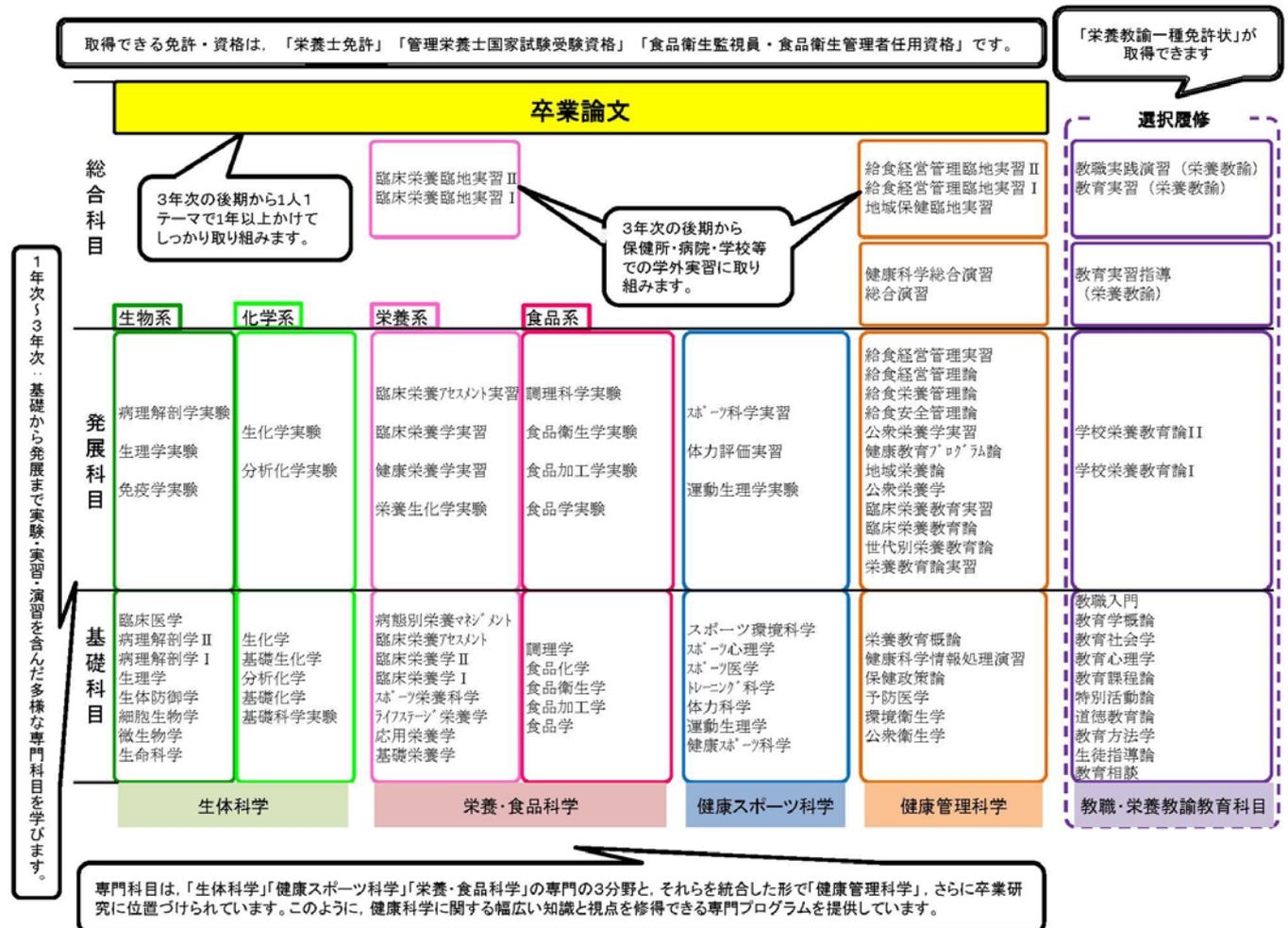
2 専門教育課程の特色

- (1) 社会科学的視点をも含めた幅広い教養と高い倫理観の^{かんよう}涵養の視点から、全学共通教育科目から32単位以上を履修します。
- (2) 「生体科学」、「栄養・食品科学」、「健康スポーツ科学」並びに「健康管理科学」の4領域については、基礎から応用まで多様な実験・実習・演習を含んだ学科専門科目から92単位（「卒業論文」8単位を含む。）以上を履修可能としています。
- (3) 「124単位以上」が卒業の要件ですが、学科専門科目のうち、「栄養士免許」に必要な56単位、「管理栄養士国家試験受験資格」に必要な82単位、「食品衛生監視員・食品衛生管理者任用資格」に必要な43単位を修得することで、それぞれの資格・免許が取得可能です。
- (4) 教職などに関する科目24単位を修得することで「栄養教諭一種免許状」が取得可能です。

3 カリキュラムの構成



4 カリキュラムマップ



5 学修成果の評価

学修成果の評価については、能動的な学修を促す手法を積極的に導入し適正な学修時間を確保した上で、コースカタログ・シラバスに配点割合を示した多面的な評価基準により厳正に行います。具体的には、授業で発展・向上をはかる「知識・技能」「思考力・判断力・表現力」「主体性・協働性」について、判断する基準を各科目において設けた上で、学期中の事前課題、学期中や学期末に行うレポート及び小レポート・プレゼンテーション・筆記試験・実技試験等のほか、フィールドワーク・地域活動を含む授業への能動的な参加度や貢献度を観察したり学生相互に評価させたりするなどの方法を用い、総合的に評価します。

入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー）

1 基本理念

少子高齢社会における、「人間の健康の科学」を考究するとの立場及び「健康増進」、「生活習慣病の予防」などコメディカルな視点から、生体科学、栄養科学、食品科学、健康スポーツ科学などについて、自然科学の分野だけでなく、社会科学的視点も含めた教育・研究を行います。

2 人材育成目標

本学科は、真に豊かで健康な人間生活の実現、長寿社会におけるクオリティ・オブ・ライフの向上、生涯にわたる健康の維持と増進、さらには心身の調和的発達の実現に、他者と協働して主体的かつ積極的に取り組む人材の育成を目指します。

3 求める学生像

- (1) 人体の仕組みと健康とのかかわりに興味を持っている人
- (2) 食品・栄養と健康とのかかわりに興味を持っている人
- (3) スポーツと健康とのかかわりに興味を持っている人
- (4) 理科学実験が好きで探究心旺盛な人
- (5) 管理栄養士などの「一次予防」にかかわる仕事に強い熱意を持っている人
- (6) 栄養教諭などの「食育」にかかわる仕事に強い熱意を持っている人

4 入学者選抜の基本方針

(1) 【知識・理解】

次のアもしくはイに該当することが求められます。

ア 高等学校の教育課程を尊重し、高等学校で履修した国語、社会、理科、数学、外国語について、教科書レベルの基礎的な学力を備えているかどうかを重視します。特に、課題を解く際に発揮される基礎的な学力についての深く幅広い理解を求めます。

イ 県内専門高等学校などで履修した国語、社会、理科、数学、外国語について、教科書レベルの基礎的な学力を備えているかどうかを重視します。あわせて、専門とする農業、家庭、もしくは体育に関する基礎的な学力とそれらいずれかに対する深く幅広い理解を求めます。

(2) 【思考・判断】

論理的に思考し、さまざまな観点から多面的に考察し、自分の考えをまとめる能力を備えていることを求めます。

(3) 【関心・意欲・態度】

「人体の仕組みと健康」、「食品・栄養と健康」、「スポーツと健康」に関心を持ち、健康の維持・増進と心身の調和的発達の実現に、積極的に取り組む意欲を持っていることを求めます。

(4) 【技能・表現】

健康科学に関する自分の考えを、日本語で他者にも分かりやすく表現する能力を備えていることを求めます。

[一般選抜（前期）]

入学者選抜の基本方針（1）のアを中心に、大学入試センター試験と個別学力検査の得点を総合的に判断する選抜を行います。大学入試センター試験では幅広い基礎学力をみるために5教科6科目（又は7科目）を、個別学力検査では小論文（説明文の作成を含む）を課しています。個別学力検査（小論文）では、論文や資料・図表などを題材として、「健康科学科で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力などをみるための設問」と「理科（化学基礎及び生物基礎）の学力をみるための設問」を行い、これらを総合的に判断し、点数化して評価します。

[一般選抜（後期）]

入学者選抜の基本方針（1）のアを中心に大学入試センター試験を課します。あわせて、入学者選抜の基本方針の（2）、（3）、（4）を重視した面接を行い、大学入試センター試験と面接双方の結果を総合的に判断します。大学入試センター試験においては、幅広い基礎学力をみるために5教科6科目（又は7科目）を課しています。面接では、健康科学に対する関心や学修意欲について試問するとともに、健康や健康科学に関する知識、さらには理科（化学基礎又は生物基礎のいずれかを選択）の教科書的な基礎的事項についての試問を行います。本学科で学ぶために必要となる論理的思考力や理解力、また、まとめる力などについて、面接時における試問への対応の仕方や内容を総合的に判断し、点数化して評価します。

[推薦入試]

県内高等学校等推薦と県内専門高等学校等推薦の2つの推薦枠があります。県内高等学校等推薦は、入学者選抜の基本方針(1)のAを重視した推薦枠で、県内専門学校等推薦は(1)のイを重視した推薦枠です。なお、基本方針(1)に掲げた能力を確認するために大学入試センター試験を課しています。あわせて、(2)、(3)、(4)に掲げた能力(思考・判断力など)を備えているかどうかを確認するために面接を行います。大学入試センター試験の成績、書類審査の内容、面接の内容などを総合的に判断し、選抜します。なお、大学入試センター試験では、理科について、教科書レベルの基礎的な学力を備えているかどうかを確認します。面接では、高校生活(海外留学経験や課外活動等を含む)、健康や健康科学についての関心や学修意欲、またそれらに関する知識についての試問を行います。また、面接では、理科(化学基礎又は生物基礎のいずれかを選択)について、教科書レベルの基礎的事項について試問を行いますが、本学科で学ぶために必要となる論理的思考力や理解力、まとめる力などについて評価することを目的として実施しています。面接時における試問に対する対応の仕方や内容などを総合的に判断し、点数化して評価します。

[社会人特別選抜]

入学者選抜の基本方針の(1)～(4)を重視した小論文(説明文の作成を含む。)と面接を行います。小論文では、論文や資料・図表などを題材として、「健康科学科で学ぶ上で必要な読解力、論理的思考力、文章表現力などをみるための設問」と「理科(化学基礎及び生物基礎)の学力をみるための設問」を行い、これらを総合的に判断し、点数化して評価します。面接では、志望理由、健康科学に対する興味・学修意欲、健康や健康科学に関する知識について試問し、論理的思考力や理解力を問い、その対応の仕方や内容などを総合的に判断し、点数化して評価します。小論文及び面接の得点と、出願書類(TOEFL又はTOEICの結果を含む。)の内容を総合して選抜します。

[外国人留学生特別選抜]

入学者選抜の基本方針の(1)～(4)を重視した面接を行います。面接では、志望理由、健康や健康科学についての興味や学修意欲、それらに対する知識、さらには理科に関する基礎的事項について、試問します。面接時における試問に対する対応の仕方や内容などを総合的に判断し、点数化して評価します。なお、日本留学試験の日本語及び理科(化学、生物)の結果並びにTOEFL又はTOEICの結果を総合して選抜します。